

病院経営改革特別委員会のメンバー



机上向かって、
右：ファブリカ
中央：ターヘル・アナトミア
左：解体新書



医学部解剖学講座、
主任教授、立花克郎先生の解説をきく

Prof. S. Miura's Commentary:

福岡大学にはかなりの貴重書コレクション(下図)があります。ヨーロッパ法のコレクションは創立 50 周年記念事業で購入、グリム兄弟コレクション、オリンピック関係コレクション、創立 60 周年記念事業として、ギリシア語原典初版「アリストテレス全集アルドウス版(1495-1498)等々。医学史には大変興味あるのですが、その歴史の中に様々な答えがあるのが興味深いことですね。



Vascular Street Journal



「福岡大学図書館探訪 — 貴重書を求めて」
解剖学の貴重書：ファブリカ、ターヘル・アナトミア、解体新書をみる

左上：図書館 1 階のロビー
左下：左の建物が中央図書館
右上：中央図書館入り口
右中：図書館入り口から A 棟を眺める
右下：図書館 1 階出入口

Special feature

福岡大学 学長 朔 啓二郎

はじめに

福岡大学中央図書館は、2012年（平成24年）3月31日に新しく建て替わりました。総工費66億円かけて造られた、最新型図書館です。現在も、新しく図書館建設を希望する大学から見学に来られるそうです。蔵書数約205万冊、雑誌約22,000タイトル余りにのびります。人文・社会科学系から自然科学系まで、多様なデータベースを利用できます。電子ジャーナルは約49,000タイトル、電子ブックは約41,000タイトルが利用可能です。

さて、病院経営改革特別委員会は、福岡大学の中で際立って質の高い議論を交わし、着実に成果を上げていく会議体ですが、経営の話はお金の勘定だけはダメだと考えます。皆さんで少しでも医学を知ることが大切と考え、メンバー全員で福岡大学中央図書館に解剖学の古書探訪に行きました。特別な貴重書閲覧室に入っただけの見学です。医学部解剖学講座、主任教授の立花克郎先生に、3つの解剖学書（古書）の解説をお願いしました。



ファブリカの扉絵。原本は白黒であるが、理解しやすいように、「医学の歴史大図鑑、Steve Parker 著、河出書房新社 2017年刊に掲載された彩色図」を引用した。

ファブリカ(1543年作成)

ファブリカを開けると

人の動きに合わせて骨学が表示されている

1543年に初版が発刊された解剖学の教科書「ファブリカ」ですが、世界に154冊、日本には7冊あるそうです。その1冊が福岡大学の図書館にあったのです。原本版です。「ファブリカ」は、ヴェサリウスというベルギーのブルッセルの代々医家の家に生まれたお医者さんが書いたものです。

ラテン語で書かれています。ヴェサリウス28歳、イタリアのパドヴァ大学教授の時です。昔、西洋も日本でもそうですが、処刑された人たちを解剖していたようです。

解剖学の最古の教科書ではないのですが、今から479年前に出版されています。大きな本ですので、紙も特注だったようです。ファブリカの扉絵（左ページ、右上の絵）の真ん中がヴェサリウス本人、これは公開解剖している絵です。左下に猿、右下の犬が書かれているのは、解剖学が古くからある学問であることを表し、一番上の二人の天使が3匹のイタチが描かれた楯を持っていますが、これはヴェサリウス家の紋章だそうです。真ん中少し上に骨標本がありますが、これはヴェサリウス先生の解剖学が骨学から始まったと言われています。

1980年、福岡大学医学部解剖学の初代教授、三好萬佐行元副学長の時代、紀伊国屋書店から、当時の値段で1225万円、福岡大学は分割して購入したそうです。現在はオークションでその4倍くらいの値段がついているようです。この本が出る前にヨーロッパはペストのパンデミックで2500万人の人々が亡くなったそうです。

現在、新型コロナの感染症によって全世界で、640万人が死んだと言われてますので、コロナの約4倍の死者がヨーロッパででたこととなります。ファブリカが出版された1543年の日本ですが、武田信玄、今川義元、毛利元就が活躍していた時代で、徳川家康が生まれた頃に出版されました。

さて、解体新書ですが、その参考になった本が、ポーランド出身、ドイツで内科医になったクルムス先生が書かれた解剖学の教科書「ターヘル・アナトミア」です。ターヘル・アナトミアは、1722年に出版されました。ファブリカが出て180年後です。当時、大人気の解剖書と言われていました。これも、福岡大学図書館の貴重書の中にありました。感激です。ドイツ語、ラテン語などで書かれたわけですが、オランダ語に翻訳されたその本を、杉田玄白、前野良沢らが参考にして書き上げたのが、「解体新書」です。木版刷りです。ターヘル・アナトミアが出版された約50年後になります。従って、「解体新書」は、ターヘル・アナトミア翻訳版ともいわれていますが、様々な文献を参考にした、「人体解剖図説」と言った方がいいでしょう。日本初のオランダ医学書の翻訳版で、神経、軟骨、動脈などの言葉を作ったのです。杉田玄白39歳、前野良沢49歳の時です。杉田玄白は85歳の長寿を全うしたそうです。解体新書の扉絵ですが、スペインの解剖学者の解剖書の扉絵を模写したものだそうです。



ターヘル・アナトミア

解体新書

解体新書の扉絵

参考文献

- 1) 朔元則：医学・医療の歴史をサラッと勉強（2020年、陽文社）
- 2) 朔元則：近代医学の黎明：ファブリカから解体新書まで（2021年、陽文社）
- 3) 原寛：解剖学の歴史(2) 福岡県医報 1553号 p12-13, 2022